

地中熱利用ヒートポンプシステムが導入されました

2月8日、県有施設としては初の試みとなる地中熱利用省エネルギー加速化工事が完成し、地中熱利用ヒートポンプシステムが農業大学校に引き渡され、本館と花き温室の2か所で運転を開始しました。

このシステムは、地中100mまでパイプを埋設して地中の熱源を利用し、建物内の空調に利用するものです。従来型のエアコンよりも省エネが見込め、CO₂の排出量削減と燃料代の節約が期待できます。

【本館駐車場横のヒートポンプ】4台ありますが、負荷によって自動的に運転が切り替わります。



【本館の集中操作盤】本館の運転状況をモニターできます。



【花き温室横のヒートポンプ2台】 地中から5本の熱パイプが伸びています。



【花き温室前のマンホール】 5か所それぞれの地下100mまでパイプが埋まっています。

